

身近な生物と環境

理科教育・家山博史

授業の目的：さまざまな環境問題や自然保護の現状と課題に関して，各自テーマを選び，資料の収集，内容の理解，発表，討論を通して，正しい認識と理解をもつこと。

受講生：生活環境 2 回生 21 名

授業内容：第 1 講で教員が身近な生物と環境について 1 つのテーマを示し，資料を作成し，説明，質疑を行い，第 2 講以降のゼミの方法を示す。第 2～8 講で毎回 3 名が個人発表する。第 9～15 講は中間アンケートからグループ発表とした。

個人発表テーマ：増加するバッタ，減少するバッタ；マングースについて；アライグマについて；外来生物アリ；ガラパゴス諸島の植物保全；イノシシの被害；日本オオカミについて；イヌとは；ミドリガメについて；イリオモテヤマネコについて；ホワイトタイガーと愛媛；カンガルーについて；世界一大きいネズミ；シロクマの生態と環境問題；ジュゴン；ナメクジウオについて；ワニについて；環境ホルモン；シャチの生態；ニホンザルについて；ハクビシンの被害

ペーパー資料を当日授業前までに用意し，配布することとしたので，発表当日までテーマが教員や学生に不明であった。質疑は低調で発表者の工夫があまり見られなかった。中間アンケートではこれを改善するにはどうすればよいか，自由記述で記載してもらった。

中間アンケート（19 名）：パワーポイントや VTR など，もっと視覚的に発表すると良い，32%；グループで調べ，発表すると良い，26%；課外授業もあると良い，37%；その他，発表の後に話し合いの時間を作る；答えられなかった質問に，次の時間までに調べて発表する；賛成一反対のディベート；教員の授業とそれに関連した発表；1 つのテーマでおこなう；このままでよいなどあり，グループ発表を取り

入れることとした。課外授業では動物園見学が希望されていたが，実行できなかった。2 回生では全員が利用できる日時が講義時間以外に取れない。自由参加で実行してみて，どの程度参加があるか調べてみても良かったと反省している。

グループ発表テーマ：食品添加物；中南米の生物；日用品に潜む毒；スカイフィッシュ；恐竜

グループ発表ではパワーポイントを利用するグループが 3 グループあった。内容は個人発表よりは環境問題に関連したものとなった。質疑も少し向上した。

最終アンケート（15 名）：

授業評価：グループ発表，パワーポイント使用は良い（一人では分からない発見がある，グループでの話し合いは社会に出ても役立つなど）47%；個人とグループ両方あって良い 27%；その他に，さまざまな生物について知ることができた；自分たちで授業を作るので良いなどあり。

改善点：授業ごとに質問や感想を書いてもらおうと意見がでやすくなるのでは；ディベートを取り入れると良い；フィールドワークもほしい；中間発表と最終発表の 2 段階に；プレゼンの工夫をするように導くなどあり。

評価：後半になって質疑がやや向上し，内容も深くなった。反省点として，ディベートは中間アンケートにもあったが，結局時間のゆとりが無くて取り入れなかった。次年度はテーマを絞り，個人発表の時間を減らしてディベートの時間を工夫すること，公園や街路をテーマにフィールド観察も取り入れることとする。